

2026年度

第1回

入学試験問題  
国語

試験時間 50分

注 意

- 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いて見てはいけません。
- 問題は□から□まであり、全部で16ページです。足りないページや、印刷が不鮮明な箇所があった場合は、手をあげて監督者に申し出てください。
- 問題冊子と解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 解答は、すべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 問題の内容に関する質問は受け付けません。
- 試験終了後、監督者の指示に従い問題冊子と解答用紙を提出してください。
- 特に指示の無いかぎり、句読点や記号は1字で数えます。

校成学園女子高等学校

受験番号

□ 各傍線部の漢字は読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① お彼岸にはいつも墓前に花を供える。
- ② 好奇心の赴くままに書物を読んだ。
- ③ 春の名残を惜しみながら散歩する。
- ④ 制御性T細胞の働きを明らかにする。
- ⑤ 被爆の記憶を若い世代に継承する。
- ⑥ 幼少期のアツイ記憶がよみがえる。
- ⑦ 離れて暮らすあの人がコイしい。
- ⑧ KPOPのカシを自分で翻訳する。
- ⑨ 地方自治体の行政に関心を持つとう。
- ⑩ 地球規模のキコウ変動に対処する。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

真依子は五歳の時にベトナム戦争から逃れ、難民として家族でボートに乗って日本にやってきた。その後日本人の夫と結婚し、日本国籍を取得した。今では大学生の娘・奈月と中学二年生の息子・賢人の母親である。自分が難民であることは子供たちに隠していたが、奈月がベトナム旅行に行くことを機に打ち明けた。これはその告白から一週間後のことである。

奈月は思った通りの反応をして、思った通りの行動に出た。すべては想定内だったはずなのに、今、真依子はかなり腹立たしく感じている。奈月がどういう思いで真依子を見無視しているのかわからないが、それがベトナムという国そのものに対するものだったら、許せないような気がするのだ。

母親がベトナム人だから、自分がベトナム人とのハーフだから、親が<sup>※1</sup>ボートピープルで日本に来たから。そんな理由で不機嫌<sup>ふきげん</sup>になっっているのだとしたら、娘とはいえ、断固、抗議しなくてはならない。

二十年間、あれほど必死に隠していた自分がそんなふう思うなんて、真依子は自分の感情の変化に戸惑っていた。我ながら相当なあまのじゃくだと思っけれど、にわか<sup>わか</sup>に沸き起<sup>おこ</sup>った<sup>①</sup>単純な正義感<sup>だれ</sup>を抑え込むことはできなかった。祖国をばかにするような誰かがいたとしたら、いつでも対決するぐらいの決意がみなぎっていて、そんな自分に、真依子自身がいちばん驚いているのだった。

( 中 略 )

「で。」

15

10

5

奈月が首にかけたタオルで髪の水分量を取りながら、反対の手でテーブルをはじく。

「座ったらいいじゃん」

夫が言う。夫は、真依子が去年作った梅酒を、炭酸水で割って飲んでいる。しぶしぶというていで、奈月が椅子を引く。

「話ってなに？」

「あなたの行動と態度のことよ」

正面から奈月を見据<sup>す</sup>えて、真依子は口を開いた。

「おはようもただいまも言わない。ご飯も家で食べない。連絡もよこさないで、日付けを越えて帰宅することもあったわよね。ひどい一週間だった」

奈月は真依子の顔をじつと見て、それはすみませんでした、と言った。

「挨拶<sup>あいさつ</sup>は必ずする。朝ご飯は家で食べる。遅くなるときは連絡する。最低限のルールです。この家にいる限り必ず守りなさい」

奈月がふんつ、と鼻息を出す。

「いいわね。返事は」

「はいはい。話ってそれだけ？」

「わたしからはそれだけよ」

「あつ、そう。で、なんでお父さんもいるわけ？」

「いたらダメか？」

「ねえ、お父さんは、お母さんがベトナム人だって知ってたわけでしょ」

「もちろんだ」

夫の返答に、奈月がへえー、と間の抜けた声を出す。

「奈月が聞きたいことっていうのは、なに？」

「まず、聞きたいことの前に、わたしはお母さんに対して、とても怒っ

40

35

30

25

20

てることを知ってもらいたい。この一週間、口を利かなかったことなんてたいしたことないぐらい、私は怒ってる。なんで今までそんな大事なことを隠していたのか、それを教えてほしい。フェアじゃないよね。ひどいと思う」

そう言った奈月の声を聞いて、ああ、この子はすでに泣き終えたあとなんだと真依子は思った。怒って泣いて自分なりに消化して、今こうしてここにいるのだと。

「奈月が二十歳になるまでは言わないでおこうと思った。でもね、奈月の二十歳の誕生日が来ても、やっぱり言えなかった。社会人になったらちゃんと話そうと思ってたのよ」

真依子の言葉に、奈月は呆れたように大きなため息をついた。

「はーっ、お母さんって、永遠に先延ばしにしそうなタイプだよね。きつと社会人になったらなつたで、今度はわたしの結婚のときにしようってことになって、結婚したらしただ、わざわざ言わなくてもいづれ自分で気付くでしょう、とか言い出しそうだよね。お母さんって、嫌なことを回避するのが得意だもんね」

「おいおい、厳しいな。奈月」

夫が 目を丸くして 言い、とつてつけたように少し笑う。

「確かに、奈月の言う通りかもしれない。奈月がベトナム旅行を予定しなければ、言わなかったかもしれない」

「ベトナム旅行そのものじゃなくて、<sup>※2</sup> 強司伯父さんから連絡があったから、わたしに言おうと思ったんでしょ？ 小さいことをごまかさな

いで。そういうところが嫌なのよ」

「おいおい、そんな言い方ないんじゃないか。もうちょっと言い方があ

るだろ」

夫がやんわりと注意する。夫がこんな奈月を見るのは、おそらくはじめてのことだろう。<sup>※3</sup> ついこの間も、こうして奈月に意見されたことがあった。そのときは驚いたけれど、今、真依子の気持ちは落ち着いていた。

これまで心の奥底に隠れていた、奈月の本来の資質が表に出てきたような気がして、「そうだそうだ、もつとやれ。もつと言いたいことを言いなさい」と、親に 詰め寄る 奈月を応援したくなる自分もいるのだった。

「ごめん。そうだね。奈月に話そうと思ったのは、強司伯父さんからの電話がきっかけだった。パスポートに必要な書類をわたしが取りに行ったのも、奈月にバレるのが怖かったから」

奈月が大きく息を吐き出す。いかにもうんざりだと言わんばかりだ。

「で、これまでずっと黙ってた理由はなに？」

力強い視線を投げてくる。

「学校でいじめられるかもしれないと思ったからよ」

奈月が再度、大きく息を吐き出す。

「それって、お母さんは、わたしのことをまったく信用していないってことだよね」

「え？」

「余計なお世話ってこと。親がベトナム人だからなんなの？ わたしがハーフだからなんなの？ なんの問題があるの？ 小中のとき、クラスにフィリピンの友達いたよ。高校のときだって、イギリスと韓国の子がいた。みんな大好きな友達だよ。なんでいじめられるのが前提なわけ？」

<sup>②</sup> 語尾がかすかに震えていた。

「……そうだね、ごめん」

奈月の言うとおりだ。実際、真依子はいじめられたことなどなかった。

「わたしたちのせいにして、本当はお母さん自身が隠しておきたかったんじゃないの？ お母さんが自分のことをはずかしいって思ってるんじゃないの？」

すぐに言葉が出ない。そうかもしれないし、そうじゃないかもしれない。わからなかった。自分の※4しゅつじ出自を、突き詰めて考えてこなかった。

「言い過ぎだ、奈月。子どものことを心配しない親はいないから」

夫の言葉に奈月は、

「お父さんも同罪だよ」

と、ぴしゃりと言い放った。

「子どもたちに伝えるべきだ、って、お母さんを納得させてほしかった。だって夫婦でしょ？ 私と賢人の親でしょ？」

夫は目を丸くしたあと、そうだよな、とゆっくりうなずいた。

「奈月、パパは伝えた方がいいって、ずっと言ってたわ。でもわたしが、どうしても言えなかったの。パパの責任じゃないわ」

「ちょっと勘弁して。そういうのは二人でやってよ」

す、すみません、と冗談みたいに夫が舌を出して、肩をすぼめる。

「今さら責めても仕方ないけど、あんまりだと思った」

「ごめんね、奈月」

「OK、その件はもういい、忘れないとは思うけど。本題に入る。ベトナムのこと、わたしなりにいろいろ調べたの。っていうか、調べてる最中なんだけど。あ、ちょっと待ってて」

そう言って奈月は二階へと上がっていき、本を抱えて戻ってきた。

115

110

105

100

95

「はーっ、重たっ！」

テーブルの上に本をどきと置く。ベトナム、ベトナム戦争、ボートピープル、というタイトル文字が目飛び込んでくる。

「図書館で借りてきたり、買ったたりした本」

思いがけなかった奈月の行動に、真依子はしばしぼかんとした。それから、ああ、そうだった。奈月はこういう子だった、と我に返り、見当違いに怒っていた自分を I 思った。奈月は、母親がベトナム人であることや、ボートピープルとして日本に来たことを憂えるような子ではない。

「ねえ、ボートピープルってなに？ お母さんはどっち側の人間だったの？」

「北？ 南？ ニヤチャンって南部だよな？」

「そ、そう、南部」

喉のどが詰まったようになった。

「アメリカ側だったってこと？」

「……アメリカ側っていう表現が合ってるかどうかわからないけれど、南ベトナムの体制側だった」

唇くちびるを尖らせて、ふーん、と奈月がうなずく。

「ベトナム戦争って、南北で戦争してたんだよね？ それはなんで？ 今の韓国と北朝鮮みたいな感じだったの？ 本によって書いてあることが微妙に違うんだよね。結局、北側が勝ったんでしょ？ 社会主義国になっただってこと？ でもガイドブックを読むとそういう雰囲気ふんいきはないよ」

「ごめん、奈月。わたしはベトナムのことや戦争のことをよく知らないのよ」

「そうなの？」

140

135

130

125

120

「知ろうとしたこともなかった」

「なんで？」

「興味がなかったから」

心底驚いたような顔をして、奈月が目でクエスチョンマークを投げかける。けれど、説明のしようがない。興味がなかった。それだけだ。真依子は物心ついたときから日本にいて、日本という環境に身を置いて、考え方や人間関係など、身についたものはすべて日本人としてのそれだ。

「ふつう、気になって仕方ないんじゃないの？ 自分の故郷でしょ？」

奈月にそんなふうに言われるなんて思いもしなかった。ふいに口元がゆるむ。

「なに笑ってるの？ なにもおかしくないよ」

哀れむような視線だ。2200グラムしかなかった奈月。本当に大きくなった。

( 中 略 )

「ベトナムは翻弄ほんろうされ続けた国だからな。ベトナム人も翻弄され続けた民族だ」

夫がゆっくり言うと、奈月はようやく、そうだね、と答えた。

「わたし、ベトナムのこと、ベトナム戦争のこと、ちゃんと知りたい。おじいちゃんやおばあちゃんにも話を聞きたい。蘭伯母らんおぼさんや強司伯父さんにも。ベトナム旅行に行くまでに、自分なりに理解したい」

姉のランはイベント会社を作って、日本とベトナムの架け橋になるべく日々忙しく奔走ほんそうしている。ベトナム雑貨のネット販売もしている、

165

160

けっこう人気があるらしい。

「わかったわ。奈月の気持ち、伝えておくね」

「よろしく」

ランはきつと、喜んでいろいろな話をしてくれるだろう。

「もう遅いから、今日は寝た方がいいな」

「言われなくてもそうする」

午前一時十五分。時計を見たとき、あくびが出た。

「おやすみ」

奈月が本を抱えて、おやすみなさいと夫に返す。

「奈月」

真依子は娘の名前を呼んだ。階段をのぼろうとしていた奈月が振り返る。

「どうもありがとう」

ちゃんと自分の気持ちを伝えてくれて、うれしかった。

「そういうの、もういいから」

「うん」

「<sup>④</sup>ねえ、それにしてもわたしって、意地悪な娘だよねえ」

真依子は小さく笑って、首を振った。

( 椰月美智子『こんぱるいろ、彼方』 )

\*作問の都合上、一部省略・改変した箇所があります。

165

185

180

175

170

※1 ボートピープル……ベトナム戦争の難民として、ボートに乗って日本にきた人々のこと。

※2 強司伯父さん……真依子の兄。奈月のアルバイト先の飲食店で奈月からベトナム旅行のことを聞き、真依子に連絡を入れた。

※3 ついこの間……賢人がいじめに加担しているのではないかと話題にあがった時、話を無難に収めようとする真依子に、奈月が強い口調で意見した出来事。

※4 出自……生まれ育った地域や家庭環境。

問一 二重傍線部 a 「目を丸くして」、b 「詰め寄る」について、本文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- a 目を丸くして
- ア いらだつて                      イ 喜んで
- ウ 驚いて                              エ 嘆いて
- b 詰め寄る
- ア 強い態度で迫る                      イ 柔軟じゅうなんに対応する
- ウ 優しく寄り添う                      エ 露骨に嫌悪する

問二 傍線部①「単純な正義感」とありますが、これは具体的にどのような心情ですか。本文中の語句を用いて二十五字以内で説明しなさい。

問三 傍線部②「語尾がかすかに震えていた」とありますが、この時の奈月の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 反感と妬ねたみ
- イ 失望と憤いきどおり
- ウ 希望と喜び
- エ 不安と悲しみ

問四 I に入る語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いじらしく
- イ ほこらしく
- ウ もどかしく
- エ はずかしく

問五 傍線部③「なに笑ってるの？ なにもおかしくないよ」とありますが、この時の「真依子」と「奈月」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 真依子は奈月の思いがけない成長に心を動かされて笑みを浮かべたが、奈月は自分の出自について真剣に考えようとしないうちに呆れている。

イ 真依子は奈月の問いかけに答えあぐねて愛想笑いを浮かべたが、奈月は真剣な話のさなかで母がなぜ笑っているのか分からず困惑している。

ウ 真依子は自分に反抗する奈月を可愛らしく思っつい笑みを浮かべたが、奈月は母がいつまでも自分を子供扱いしていると感じて落胆している。

エ 真依子は奈月の精神的な成長を実感して微笑みを浮かべたが、奈月は自分の言葉が母に伝わらないもどかしさから怒りをあらわにしている。

問六 傍線部④「ねえ、それにしてもわたしって、意地悪な娘だよねえ」とありますが、この発言の解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分は生まれつき意地悪な性格なのだと開き直っている。

イ 強い言葉で母を非難してしまったことを心から反省している。

ウ 母への気恥ずかしさを冗談めいた言葉ではぐらかしている。

エ 母から見放されてしまうのではないかと不安になっている。

問七 次の文章はこの話を読んだ生徒の感想文です。これを読み、後の問いに答えなさい。

#### 感想文

私は、この話に描かれる親子関係が面白いと思いました。一般的な親子関係は、親の言葉や行動で子どもが変化したり成長したりするものだと思います。この話に出てくる真依子も、初めは母として娘の態度や行動を改めさせようとしていました。しかし、その後の対話を通して奈月の思いに触れ、意外な行動を目の当たりにし、初めに抱いていた娘への憤りが解消されます。

「奈月との対話」という過程を通して、真依子自身が自分の中の思い込みに気づき、自身の出自に目を向け始めることを予感させる展開が印象的でした。この話の二人の関係は、一般的な親子関係とは違って、《 》  
《 》  
だと思いました。

(1) 傍線部「意外な行動」とは具体的にどのようなことですか。本文中の語句を用いて二十五字以内で答えなさい。

(2) 空欄に入る内容を考えて答えなさい。ただし、「親」「子ども」の二語を用いること。

③ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

自己肯定感を高めようという動きが大々的に始まったのは、<sup>①</sup>国際比較調査のデータを見て、日本の若者の自己肯定感が欧米の若者と比べて極端に低いとされたことがきっかけになっている。まずはその種のデータをみてみよう。

国立青少年教育振興機構が2015年に実施した「高校生の生活と意識に関する調査」の報告書を見ると、「自分はダメな人間だと思うことがある」という項目に「とてもそう思う」もしくは「まあそう思う」と答えた高校生の比率は、アメリカでは45・1%なのに対して日本では72・5%というように、著しく高くなっている。自分はダメな人間だと思ふことがあるという高校生は、アメリカでは2人に1人もいないのに、日本では4人のうち3人近くもいるのだ。

内閣府は、2013年に、各国の13歳～29歳の青少年男女を対象に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」を実施している。そのデータを見ると、「私は自分自身に満足している」という若者の比率は、アメリカ86%、イギリス83・1%、ドイツ80・9%、フランス81・7%というように、欧米諸国は8割を超えている。それに対して、日本は45・8%と極めて低く、欧米諸国の半分に近い比率になっている。

(中略)

日本の若者の自己肯定感得点が欧米の若者と比べて著しく低いのはなぜなのか。そこを突き詰めて考えていくと、「自己肯定感が低いのは問題だ」「何とかして自己肯定感を高める必要がある」といった論調が<sup>②</sup>い

20

15

10

かに的外れであるかがわかるはずだ。

どの国際比較データでも、「自分に満足」という比率は、欧米の若者では非常に高く日本の若者では著しく低い。そうしたデータが意味するものは、自己肯定感そのものの違いではなく、自分を大きく見せるために過大評価する心理傾向があるか、謙虚さゆえに自分を厳しい目で見める心理傾向があるか、といった文化的背景の違いである。

子ども時代にアメリカで暮らした社会学者の恒吉僚子<sup>つねよしりょうこ</sup>は、アメリカ人の権威的な物言いのきつさに違和感を覚えた経験の一例として、つぎのようなエピソードをあげている。「ある春の日、六歳の私は、母とシンディーという女性に連れられてドライブに出かけた。母が運転し、隣にシンディーが座り、私は後部座席で窓<sup>a</sup>ごしに外の新緑を眺めていた。突然、新緑の薫りを胸一杯吸いたくなった私は、窓を降ろしはじめた。その時、顔を半分私のほうに向けながら、いかにも権威を持った口調でシンディーが、「いたずらは止めなさい」と怒鳴ったのである。そこには、自分の命令を聞かないなどは言わせない、という威嚇的な雰囲気があった」(恒吉僚子『人間形成の日米比較——かくれたカリキュラム』中公新書 以下同書)

外気を入れようとしただけに、いたずらと決めつけられ怒鳴られた恒吉は、自分の親からこんな理不尽な叱られ方をしたことがないので、反論しようとした。

「その言葉を遮って、シンディーはさらに厳しく、「言う通りにしなさい！」と有無を言わせない口調で申しわたしただけであった」

「これが、もしわが家の出来事であったならば、どうなったか。おそらくは、「他の人が寒いでしょ……」などと言われ、(自分のせいで誰かに風邪でもひかせたら大変だ)などと慌てて窓を閉めたに違いない」

45

40

35

30

25

この事例でもわかるのは、アメリカの大人は「自分の権威」を振りかざして人を思うように動かそうとする傾向があるということである。

50

( 中 略 )

欧米では自己肯定を貫くことで自己肯定感が高まるのに対して、日本でそのようなことをしたら周囲から浮き、不適応感に苛まれ、かえって自己肯定感は低下してしまうはずだ。

55

僕たちは文化の衣を身にまとして生きている。自己肯定感というのは、属する社会の文化にうまく適応することによって高まっていくものではないか。そうであるなら、欧米人にとっての自己肯定感は自分を際立たせ自信満々に振る舞うことによって高まるだろうが、日本人にとっての自己肯定感謙虚さを示し思いやりや協調性をもって周囲の人たちと良好な人間関係を築くことによって高まるのではないだろうか。

60

※ 逆説的な言い方になってしまいが、日本人の場合は、ある種の自己否定が自己肯定感を高めるといった側面があるのではないか。

そうすると、国際比較調査の自己肯定感得点を根拠に、「日本の若者の自己肯定感の低さは問題だ」とみなしたり、「日本の若者の自己肯定感を何とかして高めないといけない」と考えたりするのは、大きな勘違いに基づくものと言わざるを得ない。

65

そうした勘違いによる教育政策が普及することで、せっかく内省能力があり、向上心もあり、思いやりもあり、周囲と協調しながら日本文化に適応している若者の心が、中途半端に欧米化することで、どの文化にも適応できないものにつくり変えられてしまう恐れがある。

70

ここまで理解できれば、「自分に満足」とは思えず、自己肯定感得点

が低くなっても、「自分は自己肯定感が低いからダメなんだ」などと気に病む必要はないし、国際比較調査のデータをみて「日本の若者は自己肯定感が低いからダメなんだ」などと萎縮する必要もないことがわかるだろう。

75

「向上心溢れる自分がここにいる。自分はこんなもんじゃない。もっと立派な人間になれるはずだ。ここで満足してしまったら成長はない。まだまだ成長できる。もっともっとマシな人間になれる。だから今の自分に満足だなんて答えることはできないんだ」といった感じに開き直ればいい。

80

このように考えると、ほめまくりによって自己肯定感を何とか高めようという近頃の風潮は、文化的要因をまったく無視して、自己肯定感得点に振り回されるばかりで、あまりにも見当違いだと思えない。実際、ほめまくりによって自己肯定感が高まる気配はみられない。

85

(榎本博明『自己肯定感が高くないとダメなのか』より)

※ 逆説……一見矛盾しているが、実は一つの真理を言い表している表現。

問一 二重傍線部 a 「新緑」 b 「苛まれ」 c 「風潮」の意味として最も  
適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

a 新緑

- ア 初冬から初春にかけて、花が満開になる前に芽吹く木々の緑。
- イ 晩春から初夏にかけて、みずみずしく芽吹いて輝く若葉の緑。
- ウ 特定の季節に関係なく、花が満開になる前に芽吹く木々の緑。
- エ 特定の季節に関係なく、みずみずしく芽吹いて輝く若葉の緑。

b 苛まれ

- ア 精神的な痛みや悩みなどで、心が苦しめられること。
- イ 人間関係の困難を乗り越え、精神的に強くなること。
- ウ 自己主張が足りず、周囲から仲間外れにされること。
- エ 新しいことに積極的に挑み、自ら危険を冒すこと。

c 風潮

- ア 気象条件の変化や季節的な風の動き。
- イ 党派によって異なる政治的な主義や思想。
- ウ 個人の好みが強くと反映された考え方。
- エ ある時代や社会で広く見られる傾向や流れ。

問二 次の【A】と【B】は、本文から引用した一続きの二文です。論  
理的な関係を明示するために二つの文の間に接続語を入れるとすれ  
ば、何が適当でしょうか。最も適当なものをそれぞれア～エから選  
び、記号で答えなさい。

【A】41行目

外気を入れようとしただけに、いたずらと決めつけられ怒鳴られ  
た恒吉は、自分の親からこんな理不尽な叱られ方をしたことがないの  
で、反論しようとした。( )

「その言葉を遮って、シンディーはさらに厳しく「言う通りにしなさい！」と有無を言わせない口調で申しわたしたただけであった。」

ア しかし イ なぜなら

ウ あるいは エ それゆえ

【B】57行目

僕たちは文化の衣を身にまとい生きていく。( ) 自己肯定感  
というものは、属する社会の文化にうまく適応することによって高まって  
いくものなのではないか。

ア しかし イ なぜなら

ウ あるいは エ それゆえ

問三 傍線部①「国際比較調査のデータ」に関して、以下の問いに答えなさい。

(1) 「高校生の生活と意識に関する調査」において、「自分はダメな人間だと思うことがある」と回答した日米の高校生の比率として正しい組み合わせを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本 45・8%      アメリカ 72・5%
- イ 日本 72・5%      アメリカ 45・1%
- ウ 日本 72・5%      アメリカ 86%
- エ 日本 45・8%      アメリカ 45・1%

(2) 本文で示された「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」に関して、その内容や結果に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この調査は、内閣府によって今から十年以上前に実施されたものである。
- イ 本文で示されたデータを見る限り、世界中から地域の偏りなく調査対象国が選ばれている。
- ウ 「私は自分自身に満足している」と答えた若者の比率は、欧米諸国で低く、日本では高かった。
- エ 「私は自分自身に満足している」と答えた欧米諸国の若者の比率は、日本の若者の比率の半分に近い数値である。

問四 傍線部②「いかに的外れであるかがわかるはずだ」とありますが、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の若者の自己肯定感が低いのは問題であり、何とかして自己肯定感を高める必要があるから。
- イ 複数の国際比較調査のデータによれば、欧米と比べて日本の若者の自己肯定感が著しく低いのは明らかだから。
- ウ 自己肯定感が低いのは文化的背景の違いによるもので、表面的な数値だけで単純に比較するのは妥当でないから。
- エ 日本の若者には自分を大きく見せるために過大評価する傾向があるという主張は根拠がないから。

問五 傍線部③「ある種の自己否定が自己肯定感を高める」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自己否定と自己肯定を繰り返すことで自然と他人から評価されるようになれば、やがて自己を肯定する感覚が高まるということ。

イ 安易に自己肯定せず、自分の至らなさを受け入れて努力する姿勢が、結果として数値では表れない自信や成長につながるということ。

ウ 欧米人と異なり、日本人は謙虚さと協調性があるので、自己肯定感がなくても円満で良好な人間関係を築けるということ。

エ 日本の若者の自己肯定感を何とかして高めないといけないという考えは、大きな勘違いに基づくものと言わざるを得ないということ。

問六 本文に関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 本文は自己肯定感をテーマにした評論であり、筆者は自己肯定感の定義を明確にしたうえで自説を展開している。

イ 本文は自己肯定感をテーマにした評論であり、筆者は自己肯定感の低い日本の若者の現状を問題視している。

ウ 本文は自己肯定感をテーマにした評論であり、筆者は自己肯定感をめぐる近年の一般的な見解を批判している。

エ 本文は自己肯定感をテーマにした評論であり、筆者は自らの主張を具体的な数値と事例で補強している。

問七 太線部「この事例でもわかるのは、アメリカの大人は『自分の権威』を振りかざして人を思うように動かそうとする傾向があるということである」という筆者の主張に対して、批判的にとらえた意見を考え、六十字以上百字以内で書きなさい。

を

#### 四

次の文章は、天保十二（一八四一）年に、江戸の文化人たちが多摩郡押立村（現在の府中市・稲城市のあたり）に住む親戚を訪ねた時の紀行文の一部です。本文を読み、後の問いに答えなさい。

下高井戸・上北沢など過ぐる頃、月晴れわたり、木の間より漏りくるも<sup>①</sup>面白し。足もいささかつかれぬれども、いまだ夜深く、道の<sup>A</sup>かたはらなる民家の縁にしばし並び<sup>B</sup>あて、煙草<sup>たばこ</sup>などかたみにとり出し、しばし休らふ。戸をさし込みたれば、主は知らず。

ぬし知らぬ ※<sup>1</sup> はにふの軒に打ちなみて

月見がてらに しばしやすらふ

上高井戸にて夜はほのほのと明けわたりたるに、行く手の左に、出茶屋の<sup>※<sup>2</sup></sup>床几作りなしたる前の畑にそひて、菊の花いと盛りに咲き匂へるに、朝霜置き渡したるは<sup>※<sup>3</sup></sup>またなき詠なり。何れも腰打ちかけ、ささへとり出し、にぎり飯などくふ。里人はいまだ起き出でざれば茶はなし。<sup>②</sup>行くさきにてこそとて立ち出でぬ。

行くかたは はるかなれども 咲きにほふ

※<sup>4</sup> まがきの菊の もとは<sup>③</sup>立ちうき

しばし行けば<sup>※<sup>5</sup></sup>烏山なり。清き流れをせき入れて水車かけたる家あり。板戸のひまより内のさまをみれば、人の住居はあらで数多の白を立ちならべ、米をつくなり。かたへにはふるふもあれば、通しといふ物にかけて通すあり、団扇をもてあふぐあり、白の敷はいくつといふもかぞへつくされず。

瀬をはやみ 流るる水に とどろきて

音ものすごく めぐる大車

（友田次寛撰「玉川記行」『世田谷地誌集』）

\*作問の都合上、一部省略・改変した箇所があります。

※<sup>1</sup> はにふの軒……粗末な家のこと。

※<sup>2</sup> 床几……ここでは数人が座れる腰かけ台のこと。

※<sup>3</sup> またなき詠……ここではすばらしい詩作体験のこと。

※<sup>4</sup> まがき……植物であまれた垣根のこと。

※<sup>5</sup> 烏山……千歳烏山のこと。

問一 点線部A「かたはら」、B「みて」の読み方をすべて現代仮名づかい（ひらがな）で書きなさい。

問二 傍線部①「面白し」とは「趣深い」という意味ですが、筆者は何が「趣深い」と考えているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 木々の隙間より差し込む月光
- イ 夜空にきらめく星の光
- ウ 木の枝にふりそそぐ陽の光
- エ 下高井戸・上北沢の風景

問三 傍線部②「行くさきにてこそ」とは「行く先にあるだろう」という意味ですが、筆者は何があると思っているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 里人
- イ 菊の花
- ウ にぎり飯
- エ 茶

問四 傍線部③「立ちうき」とは「立ち去ることがつらい」という意味ですが、なぜつらいのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 菊の花が見事だが、霜が降りているのが残念だったから。
- イ 菊が美しく咲いているのに、先を急がねばならないから。
- ウ 夜が明け始めたとはいえ、まだあたりは暗いから。
- エ 目的地まで遠いので、もう少し休んでいきたいから。

問五 授業でこの作品を読んだ後、先生と生徒たちの間で次のような対話が行われました。対話文を読み、次の問いに答えなさい。

生徒A 江戸時代の有名な紀行文には（ ① ）がありますが、この作品に似ていますね。筆者自身が旅行中に経験したことを和歌にしているように感じます。

生徒B 江戸時代の紀行文を読むと、当時の様子がよくわかります。今でも駅名として残っている地名が出てきてわくわくしました。

先生 本文中の「烏山」は本校のある千歳烏山のことです。この作品の少し前に成立した『遊歴雑記』という本にも、千歳烏山のこと  
が書かれているので読んでみましょう。

ただし内藤新宿より府中まで五里十七町といへど、街道俗地にしてさらに風景なくほとんど退屈を生じ、川崎大師への道中大師かはらの路すらに比すれば面白からず、拔群遠し。

（中略）

からす山といふところは高さより低きに下れり、清らかで勢いのある川清潔の逆流往來に横たはり、すなはち路傍ろぼうに水車を仕掛け、からし・とうが

らし等を粉にして、道を行きかう人々に売り、往來の人にひさぎ、こうきやく行客の足をとどめて煎

またちよつとした面白みがある。  
茶をすすむ、又一興たり。この水左側を伝ひ坂下へみなぎり落ちて清く潔き事、目覚むるがごとし。

生徒A 今回の「玉川記行」と『遊歴雑記』を読み比べてみて共通してわかることは、江戸時代の千歳烏山は（ ② ）のですね。

生徒B わたしは『遊歴雑記』の筆者が街道の様子を良い風景もなく退屈だと言ったところを意外に感じました。そういうところで和歌をつくるものでしょうか。

生徒A そう考えると「玉川記行」の筆者たちは（ ③ ）という点が面白いですね。

（1）空欄①に入る作品として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- |   |        |   |       |
|---|--------|---|-------|
| ア | 『奥の細道』 | イ | 『枕草子』 |
| ウ | 『土佐日記』 | エ | 『徒然草』 |

(2) 空欄②に入る語句として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 家の中で白やふるいなどをつかって脱穀していた
- イ 人々の行き来をさえぎる荒々しい川があった
- ウ からしやとうがらし、お茶の産地だった
- エ 清らかな水流や水車とともにある生活をしていた

(3) 空欄③に入る内容を自分で考えて答えなさい。